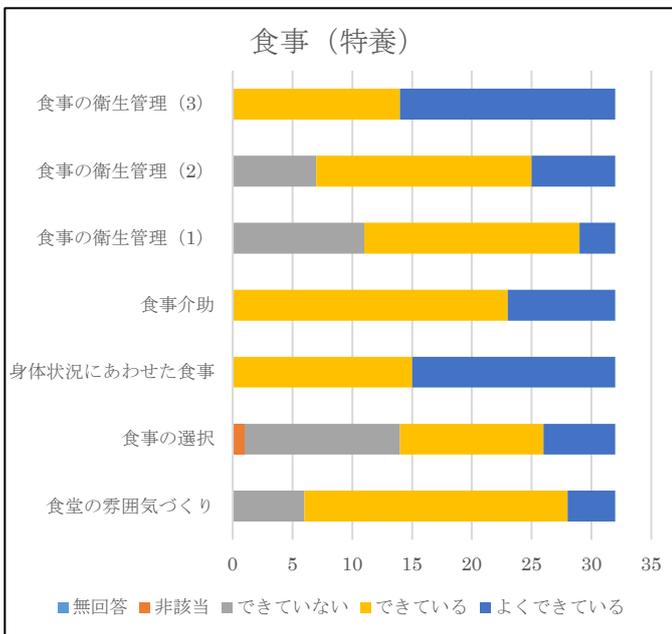


## 介護サービス自己評価結果（平成28年度）11月4日実施（特養）

### I 日常生活援助サービス

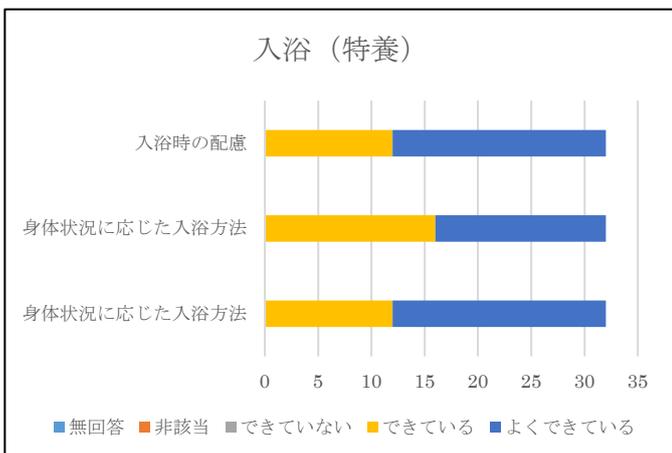
#### 1. 食事

食堂の雰囲気づくりは 81%、食事の選択は 56%、身体状況に合わせた食事は 100%、食事介助は 100%できている。食事の衛生管理については、毎食前に利用者の手指の消毒を行っているのは 66%、残り 34%はおしぼりタオルでの清拭であった。食堂の床やテーブルを毎食後消毒しているのは 78%、毎食後の口腔ケアは 100%できているという結果でした。



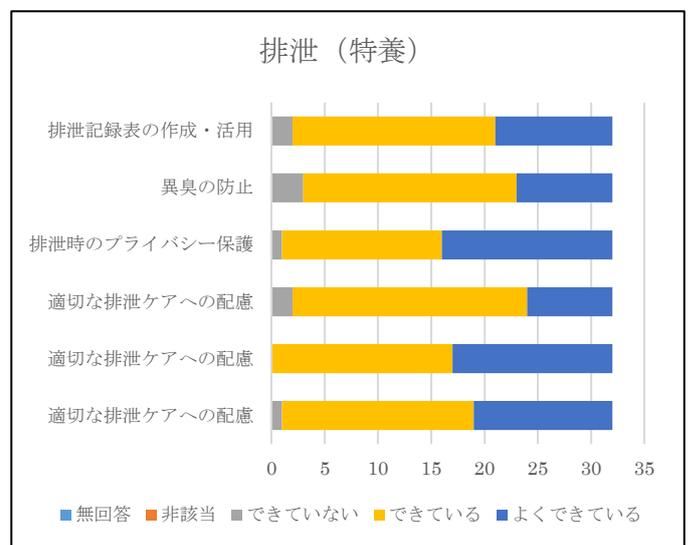
#### 2. 入浴

入浴については身体状況に応じた入浴方法や入浴時の配慮は 100%出来ているという結果でした。



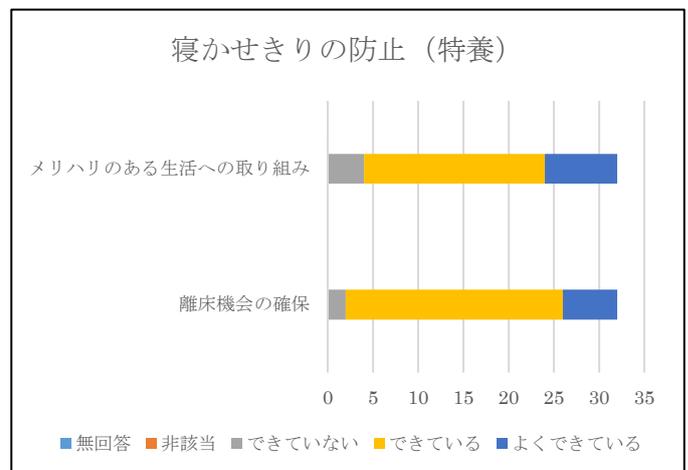
#### 3. 排泄

適切な排泄ケアへの配慮については、利用者に適切な排泄ケアを選択しているのは 97%、定期交換に加え利用者の状況に合わせ排泄介助を行っているのは 100%、出来るだけトイレで排泄できるように工夫しているが 94%、排泄時のプライバシー保護が 97%、異臭の防止は 91%、排泄記録表の作成・活用は 94%できているという結果でした。



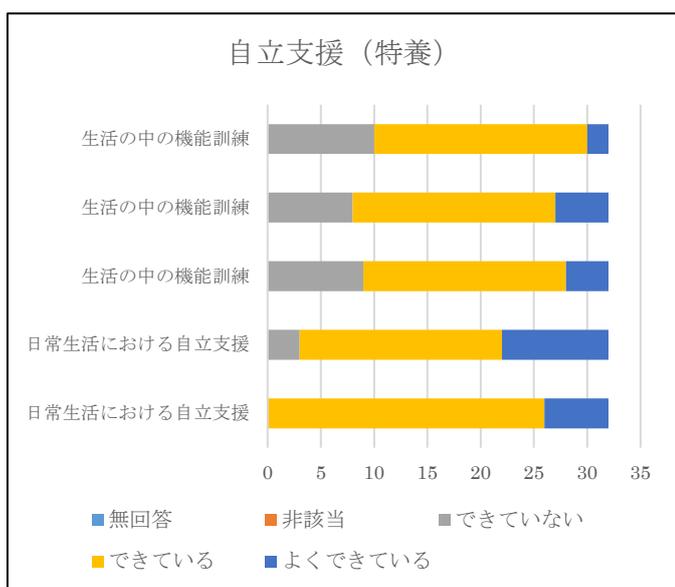
#### 4. 寝かせきりの防止

離床機械の確保が 94%、メリハリのある生活への取り組みが 88%できているという結果でした。



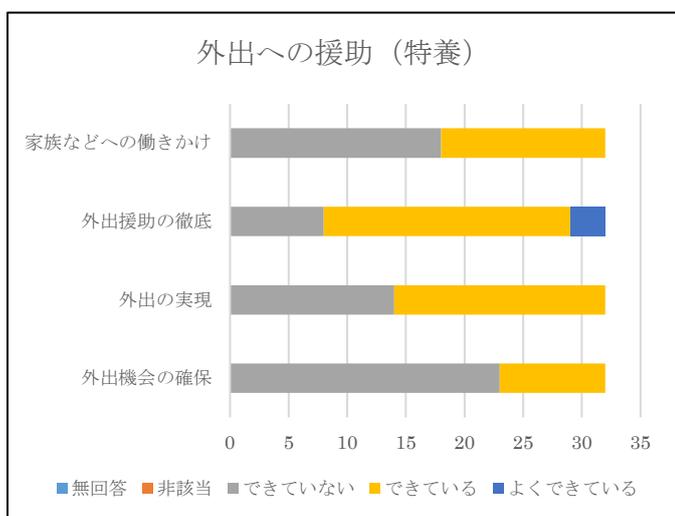
## 5. 自立支援（機能訓練）

日常生活における自立支援において、自分で出来る事柄を全員で確認可能な書式があるは100%、利用者の自立を維持し広げているが91%できている。生活の中の機能訓練において、機能訓練内容を介護職員が把握しているが72%、介護職員が生活の中で機能訓練を自覚して業務を行っているが75%、機能訓練者と密接に連絡情報交換を行っているが69%できているという結果でした。



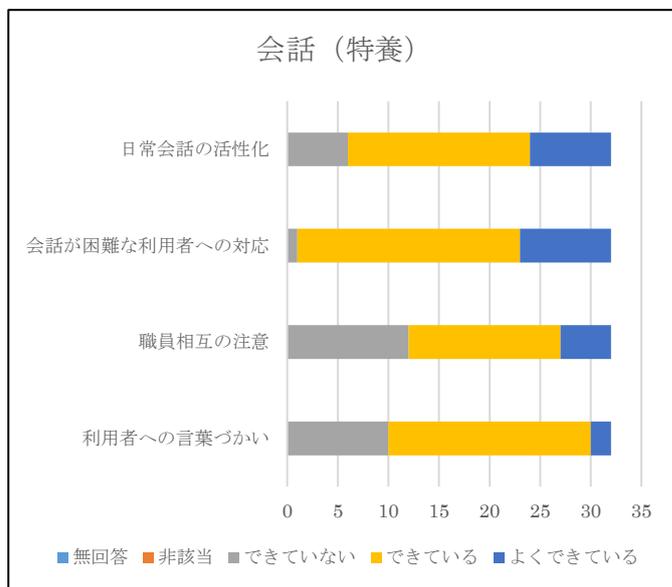
## 6. 外出への援助

外出機会の確保は28%、外出の実現は56%、外出援助の徹底は75%、家族への働きかけは44%ができているという結果でした。



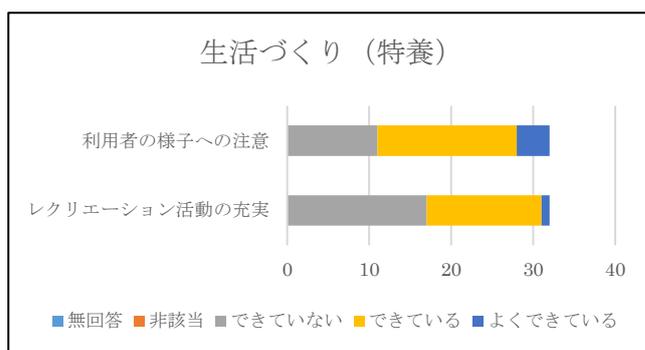
## 7. 会話

利用者への言葉使いが69%、職員相互の注意は63%、会話が困難な利用者への対応は97%、日常生活への活性化は81%ができているという結果でした。



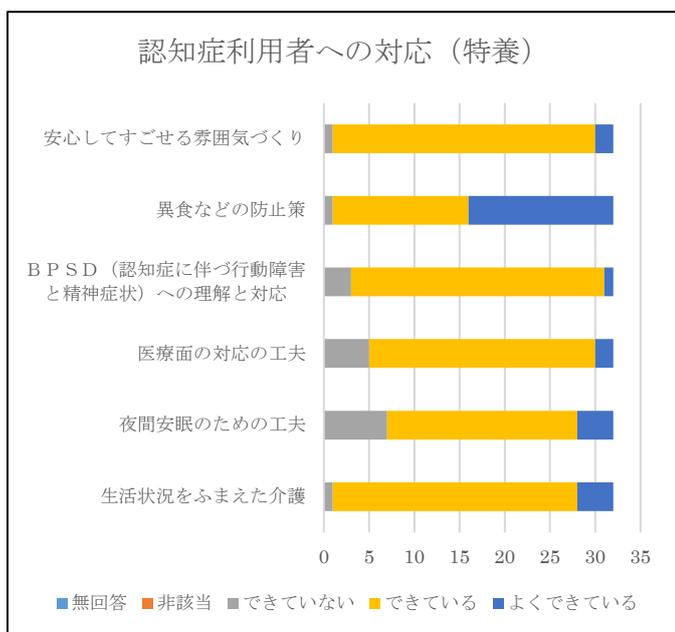
## 8. 生活づくり

レクリエーション活動の充実が47%、利用者の様子への注意が66%できているという結果でした。



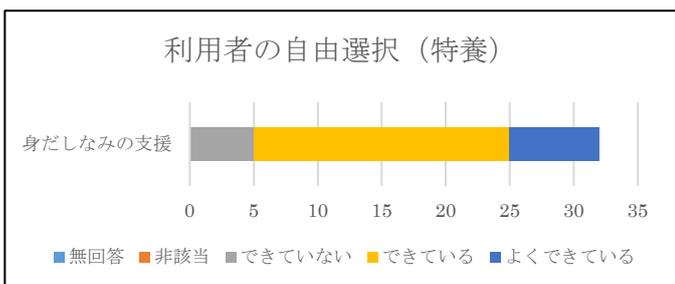
## 9. 認知症利用者への対応

生活状況を踏まえた介護が 97%、異食などの防止が 97%、安心して過ごせる雰囲気づくりが 97%、BPSD への理科と対応が 91%、医療面の対応と工夫が 84%、夜間安眠のための工夫が 78%できている結果でした。



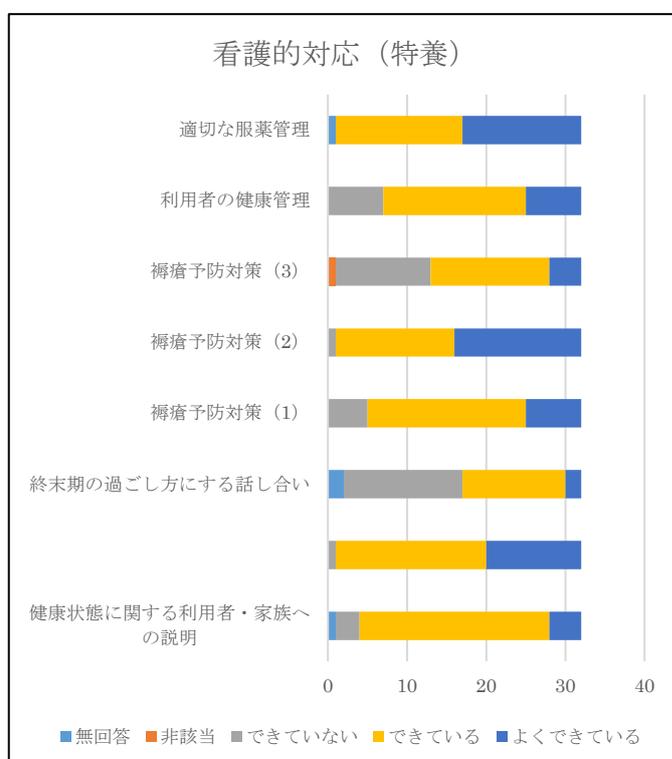
## 10. 利用者の自由選択

身だしなみへの支援は 84%できているという結果でした。



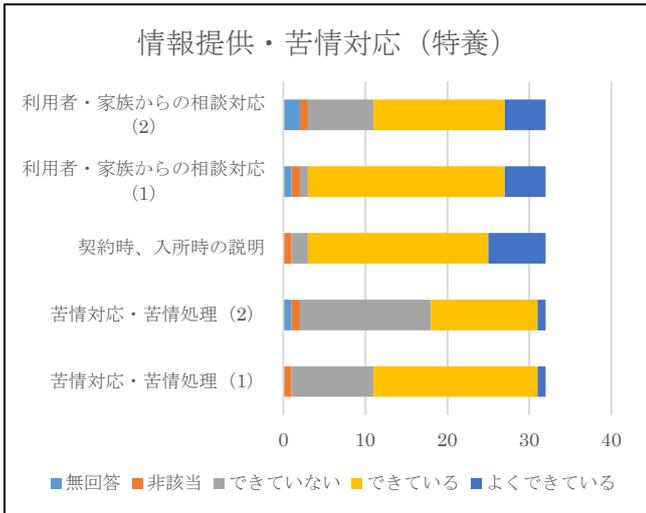
## 11. 看護的対応

健康状態に関する利用者・家族への説明についてはわかりやすく説明し理解を得ているが 88%、健康状態の変化を必要時家族に報告しているは 96%できている。終末期の過ごし方の話し合いは 47%できている。褥瘡予防対策で定期的に体位変換を行っているが 96%、看護職・栄養士が利用者の皮膚や栄養状態を観察しているが 84%、介護職と看護職が話し合い介護器具を導入しているが 59%できている。利用者の健康管理は 78%、適切な服薬管理が 96%、出来ているという結果でした。



## 12. 情報提供・苦情対応など

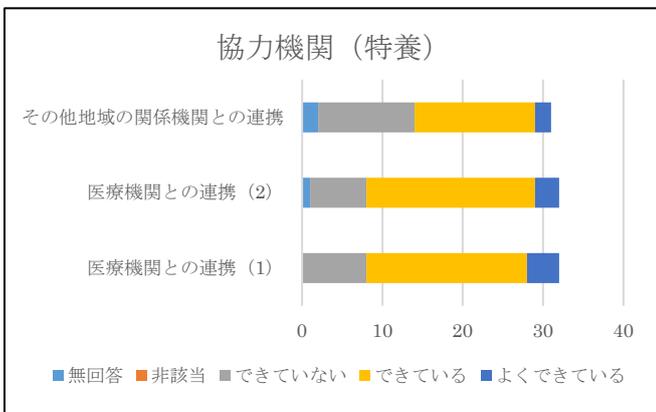
苦情対応・苦情処理について不満・苦情を引き出す工夫をしているのは 66%、相談や苦情内容を各職種間で周知されているのは 44%、できている。契約時、入所時の説明は 90%できている。利用者・家族からの相談対応について、必要な対応に努めているのは 90%、利用者家族からの経済的・社会的相談に応じているのは 65%できているという結果でした。



## II 地域連携

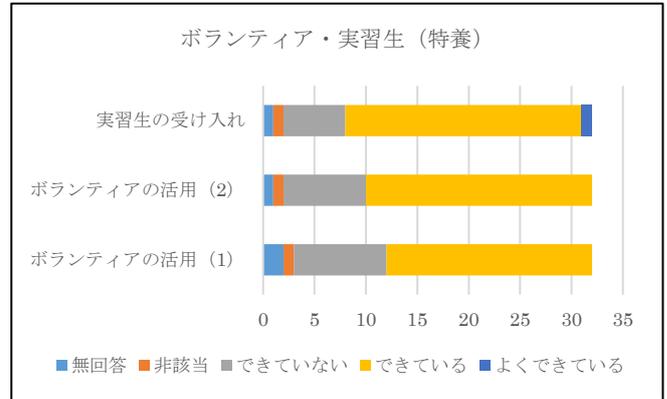
### 13. 協力期間

医療機関との連携については、必要時適切な診療が行われているが 75%、入院期間中に家族と病院と円滑な連携が取れているが 75%できている。その他地域関係機関との連携は 53%できているという結果でした。



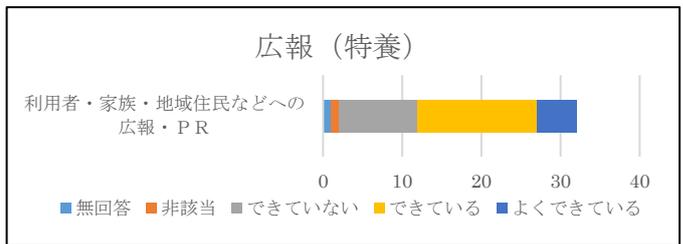
## 15. ボランティア・実習生

ボランティアの活用については、受け入れ窓口や仕組みが整備されているが 63%、活動期間中のフォローが行われているが 69%できている。実習生の受け入れは 72%できているという結果でした。



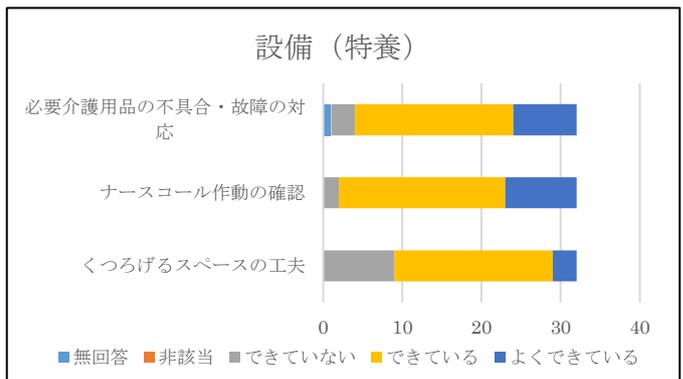
## 16. 広報・PR

利用者・家族・地域住民などへの広報・PRは 78%できているという結果でした。



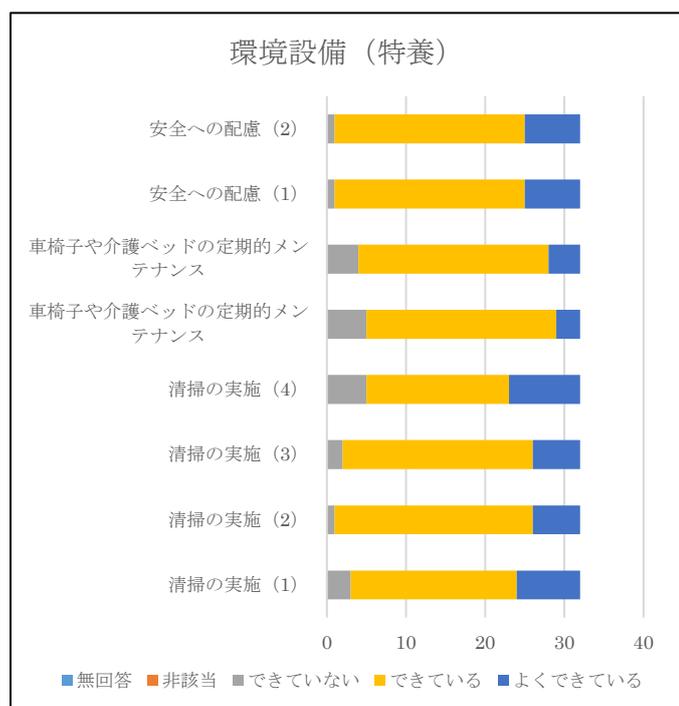
## 17. 設備

くつろげるスペースの工夫については 72%、ナースコール作動の確認は 94%、必要介護用品の不具合・故障の対応は 88%できているという結果でした。



## 18. 環境整備

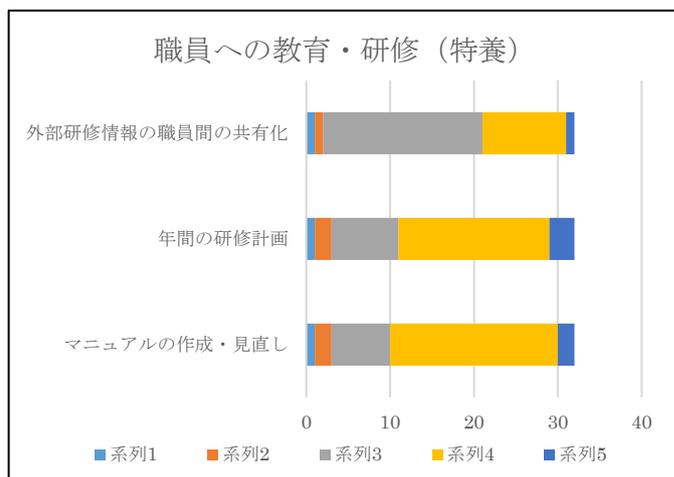
清掃の実施については、廊下・居室・トイレの掃除は1日1回程度行っているのは88%、年末時に大掃除を行っているのは88%、掲示物の管理は94%、廊下や居室の汚れを見つけたらすぐに対処しているのは84%ができています。車いすやベッドの定期的メンテナンスについては、必要に応じ清掃、修理、交換を行っているが84%、車椅子の空気が抜けているのに気づいたらその場で対処しているが88%ができています。安全への配慮については、事故情報やヒヤリハットを活用し、廊下や居室に障害物を置いていないのは97%、床や段差、照明などに安全の配慮をしているが97%ができていますという結果でした。



## IV マネジメント（運営管理）

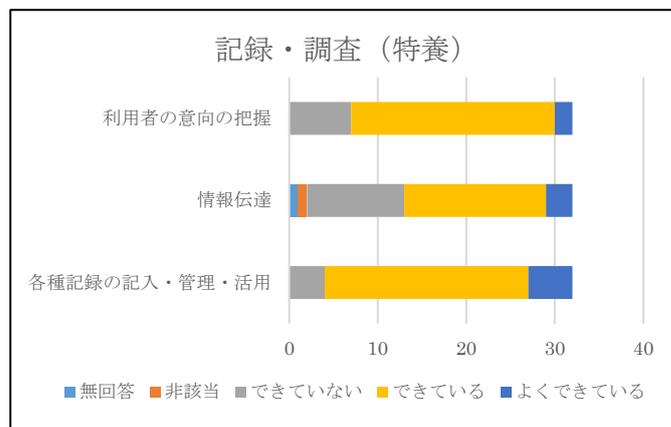
### 19. 職員への教育・研修

マニュアルの作成・見直しは69%、年間の研修計画を立てて実施しているのは66%ができています。外部研修情報の職員間の共有化は59%という結果でした。



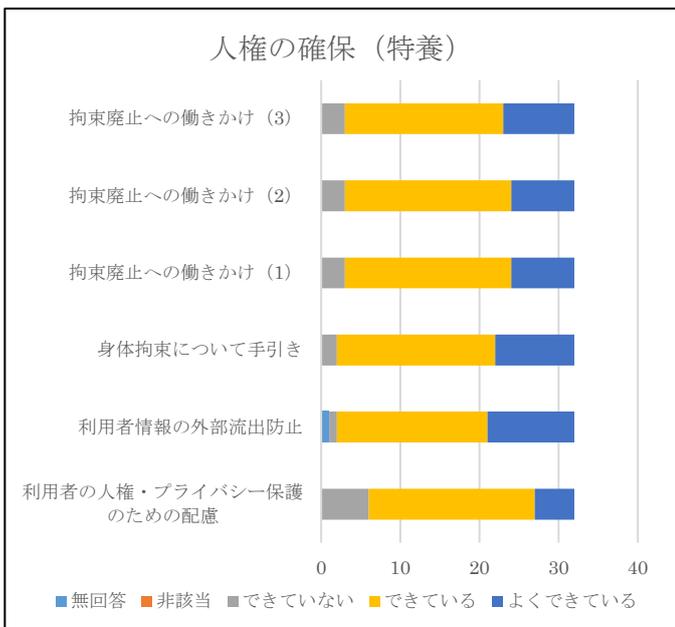
### 20. 記録・調査

各種記録の記入・管理・活用は88%が、情報伝達は59%が、利用者の意向の把握は81%ができていますという結果でした。



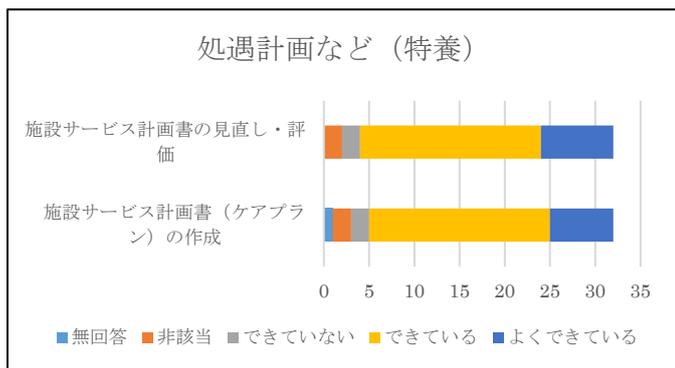
## 21. 人権の確保

利用者の人権・プライバシー保護のための配慮は81%が、利用者情報の外部流出防止については94%が、身体拘束についての手引きについては94%が、高速廃止への働きかけについては、すべて94%が、できているという結果でした。



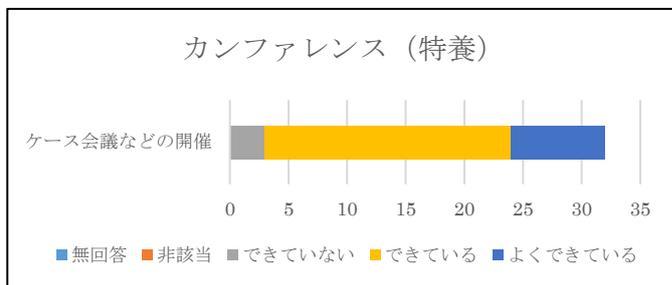
## 22. 処遇計画

施設サービス計画書(ケアプラン)の作成は84%、施設サービス計画書の見直し・評価については88%ができているという結果でした。



## 23. カンファレンス (ケース会議等)

ケース会議などの開催については91%ができているという結果でした。



## 24. リスクマネジメント

不測の事故に備えた訓練・研修の実施は84%が、感染症対策は72%が、徘徊に対する適切な対処は72%、誤薬などの場合の対応は81%、事故防止への対策は63%、災害等に備えた対応は81%ができているという結果でした。

